



# 森山メモリアル病院



医療法人社団 元生会

## 訪問リハビリテーション通信

第1号(特別増刊号)  
春号



### ご挨拶

みなさん、こんにちは！訪問リハの管理者をしております小林です。日頃は訪問リハをご利用いただき誠にありがとうございます。当事業所は今年の春で開設7年目を迎えることができました。これもひとえにご利用者様やご家族様、また地域の関連サービスの皆様のご理解とご支援のおかげだとスタッフ一同感謝しております。

日々の訪問の中で、たくさんの出会いを経験しています。現場においては、教えることより、逆に多くのことを教えていただき、勉強させていただいているなど感じています。訪問リハでは、退院したばかりの方もいれば、長年在宅で療養されている方もいらっしゃいます。かかわりの中ではご病気や障がいのことも十分に考慮し、ひとひとの関わりを大切にした上で、ご利用者様のこれからの療養生活の継続や思いを実現できるよう、たくさんの意見交換をしながらお手伝いをさせていただきたいと思っています。

今年から、まだ手探り状態ではありますが、この訪問リハ通信を発行する運びとなりました。訪問においては、なかなか他の方が何をやっているかもわからず、お一人でたくさんのことに悩まれている方も多いかと思います。この通信なども通して少しでも情報の共有や励みになれば幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

森山メモリアル病院 居宅介護事業部 訪問リハビリテーション事業所 小林 浩

### スタッフ紹介

4月からの 当事業所のメンバーです！！



上段：石川(PT) 堂田(PT) 与坂(PT) 前田(ST) 平館(PT)  
中段：天野(事務) 小島(PT) 加藤(事務) 藤田(PT) 田島(PT) 林(OT)  
下段：住吉(PT) 片桐係長 中島院長 小林所長 片野(PT)

PT(理学療法士): 10名 OT(作業療法士): 2名 ST(言語聴覚士): 1名 事務員: 2名

# ひと チャレンジ！！

訪問リハビリでは、筋力トレーニング、歩行練習などの身体機能練習に加え、家事動作やお買いもの、趣味活動などの参加のお手伝いをさせて頂いてます。この『ひとチャレンジ！！』では訪問リハビリでの活動を通して、前向きに生活を営んでいるたくさんのご利用者様を紹介し、生活の励みとなって頂けたら幸いです。

【利用者様】 田代幸子様  
脳梗塞(右片麻痺) 訪問リハビリ:週3回  
お料理が好きな方で、体調に合わせて調理実習を行っています。献立は、季節に合わせて一緒に考えています。



<卵巻き> (写真:右)  
右手に麻痺もありますが、右手の親指でボールの縁を抑えて(薄焼き卵を作るため)片栗粉を混ぜているところです！！しっかりと麻痺側の手で押さえる事が出来ています！



<いなり寿司> (写真:左)  
あらかじめ油揚げの味付けは幸子さんに準備してもらい、訪問リハビリの時間では酢飯を詰める作業(両手動作)を練習しました。  
右手(麻痺している手)でいなりを持って、上手に酢飯を詰めているところです。ご主人と仲良くおしゃべりをしながら作業しています。

いなり寿司の完成です！！(写真:下)  
飾りの紅生姜とそぼろは、幸子さんのアイデアです。  
(きれいですね～。)幸子さんお手製の胡瓜の粕漬けと沢庵も添えて、きれいにパックに詰めました！！



※本人の了解を得て掲載させて頂いています。

## 介護報酬改定ニュース

### 平成24年度介護報酬改定のお知らせ

#### 1. 介護報酬

訪問リハビリテーション科 ご負担額に変更はありません。

#### 2. 訪問介護事業所との連携加算(生活機能向上連携加算)

訪問介護事業所のサービス提供責任者と訪問し、身体の状態等の評価を共同で行い、訪問介護計画を作成する上で必要な指導及び助言を行った場合、加算可能となります。

#### 3. サテライト型訪問リハビリテーション事業所の設置が可能となりました。

#### 4. 医師の診察頻度の見直し

元生会(森山病院、森山メモリアル病院、福祉村サテライト診療所)以外の医療機関(主治医)から診療情報提供書を受けて、訪問リハサービスを受けている場合、訪問リハのある病院(指示医)に、主治医の診察から3ヶ月以内に受診が必要となります。

※主治医と指示医の2ヶ所の受診が今後必要になると思われます。

どのような受診対応ができるかは、現状調査を行い、対策を検討していきたいと考えています。  
※元生会を受診されている方も少なくとも3ヶ月に1度の受診が必要となります。

#### 【編集後記】

今年度から、訪問リハビリ通信を通して、介護保険制度のこと、福祉用具のこと、生活への工夫、頑張っている利用者様の紹介・・・など、皆様の生活に役立てられるような情報を発信していきたいと思っています。

私が今、日々の訪問業務の中で感じている事は、「いろんな活動に挑戦したい」という「希望」を持っている方、また、実際に挑戦されている方も多くいらっしゃるということです。

病前とは方法が少し変わってしまうかもしれませんが、活動を「する」ということには変わりはなく、どんな形であれ、「する」ということに大きな意味があるのだと思っています。

たくさんの葛藤を乗り越え、新しいステップ(活動への参加)に踏み込んでいる方々のリハビリに関わらせて頂き、私自身も勇気づけられています。

この場で皆様と多くの情報を共有できればと思っています。

今後も、どうぞよろしくお願い致します。

編集長 林 弓美子